

2020.01.24

中国風険消息<中国関連リスクニュース> <2019 No.7>**武漢市で発生した新型コロナウイルスについて（続報）****【要旨】**

- 昨年末に武漢市で発生した当初原因不明と言われた肺炎は、新型コロナウイルスが原因と断定された。
- 中国国内では、春節休暇の帰省や旅行等で延べ 30 億人が大移動と言われており、感染の広がりが懸念される。
- 企業においては、情報収集を継続すると共に、感染予防対策等の準備や事業継続計画（BCP）等の確認を行うことが望ましい。

1. 中国国内の状況**(1) 湖北省武漢市における感染の状況**

中国の湖北省武漢市において発生した当初原因不明と言われた肺炎は、新型コロナウイルスが病原体であると断定された。湖北省武漢市における感染状況等は表 1 の通りである。

表 1：湖北省武漢市における感染状況（1月23日中国時間15時現在）

項目	内容
病原体	新型コロナウイルス（※1）。重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）とは異なる新しいウイルス。
感染者	湖北省累計 444 人、武漢市累計 425 人（※2）、湖北省の退院 28 人、湖北省の入院隔離治療中 399 人（極めて重症 24 人、重症 71 人、軽症 250 人）
死亡者	湖北省累計 17 人
感染源	武漢市内の海鮮市場関係者の感染が多いため、同市場が感染源であると疑われている。
感染経路	感染経路の詳細は、現時点では不明。家族間の感染、医療従事者の感染事例が報告されており、ヒトーヒト感染の可能性は排除できない（※3）。
症状	主な症状は、高熱、倦怠感、咳、痰であり、一部の患者には呼吸困難の症状や胸部レントゲンで両側の肺に病変が見られる。

※1：コロナウイルスは、ヒトに蔓延している風邪のウイルス 4 種類と、動物から感染する重症肺炎ウイルス 2 種類の合計 6 種類が知られている。深刻な呼吸器疾患を引き起こすことがある重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）以外は、感染しても重症化せず風邪に類似した症状に留まると言われている。

※2：武漢市は1/22から感染者数等の開示を止め、湖北省が情報開示を行うようになった。

武漢市の感染者数については、年初から1/15までの感染者は累計41人と変わらず新たな感染は認められないと公表されていたが、1/16に4人、1/17に17人、1/18に59人、1/19に77人、1/20に60人、1/21に105人、1/22に62人の増加が確認された。

※3：中国政府の専門家は「ヒトからヒトへの感染が起きている」とコメントしている。

(2) 武漢市当局の対応

武漢市衛生健康委員会は、1/11に国や湖北省と連携して、以下5つの対策を実施すると公表している。

- ① 専門家等のリソースを活用して、早期の発見・診断・隔離・治療に全力を尽くす。
- ② 感染源と疑われる海鮮市場の閉鎖と疫学的調査を行う。また、市内の公共施設や各市場における衛生管理指導を強化する。
- ③ 感染症予防のための啓発を行い、住民の予防意識を醸成する。
- ④ 中国政府や省が実施する病原体の調査に協力する。
- ⑤ 中国政府の国家衛生健康委員会と協力して、WHO等との情報共有を行う。

武漢市は1/20に発熱外来の医療機関と救急医療機関のリストを公表した。1/23の10時（中国時間）から武漢市内の公共交通機関（地下鉄、バス、フェリー）の運行を停止すると共に、市外につながる駅や空港を一時的に閉鎖すると発表し、武漢から離れないよう市民に呼びかけている。

(3) 湖北省当局の対応

武漢市が所在する湖北省は、1/22に公衆衛生事故の対応計画を2級レベルで発動すると開示した。計画は1級～4級の4フェーズが規定されており、2級は、2番目に厳格な計画となっている。主な対策は、以下の通りである。

- ① 各市・州・県で対応組織を構築し、行政区域全体で感染防止策等を統一的に実施する。
- ② 治療方針に基づき患者の隔離治療を行うと共に、濃厚接触者等への隔離医学観察を行う。
- ③ 空港、駅等の交通の要所において、体温検測等の水際対策を行う。不特定多数の人が集まる活動を制限すると共に、公共施設や交通機関の利用等の社会生活において感染が広がらないよう対策を講じる。
- ④ 各機関に感染者情報の報告を求め、疾病予防センターで情報を収集し一元管理する。
- ⑤ 発熱外来や救急医療機関を公開する。政府の治療方針等に基づき医療従事者への教育や院内感染対策を進めつつ医療体制を強化する。
- ⑥ 適切な医療行為が提供できるよう、薬品、医療機器、検査資材を確保する。
- ⑦ 感染者の家族や医療関係者の家族への配慮を忘れず、社会の安定を維持できるよう努める。

(4) 中国国内の武漢市以外での感染の状況

中国国務院は1/22に初めて記者会見を行い、新型コロナウイルスの肺炎により国内13地域で感染が確認され、死者が9人、感染者が440人に増加したことを公表した。また、この会見において、ウイルスの変異の恐れや更なる感染拡大について言及した。

また、中国国家安全衛生委員会は、1月23日24時現在の情報として、国内29地域で死者が25人（湖北省24人、河北省1人）、感染者が830人（重症177人、退院34人）に増加したことを1/24に公表した。

武漢市以外の日系企業が多く進出する地域において、当局から公式に発表された情報は表2の通りである。表2以外の地域（雲南省、四川省、河南省、河北省、山東省、湖南省、江西省、福建省等）でも感染が確認されており、中国全土への感染拡大が既に始まっていると考えられる。

表2：中国国内における感染の状況（1月24日中国時間8時現在、各地域の衛生健康委員会HP参照）

地域	発症者数	状況
北京市	22人	<ul style="list-style-type: none"> ・武漢に旅行歴のある患者1人への感染が、1/20未明に公表された。 ・その後、同日で3人の感染者増が公表された。武漢に旅行歴のある男性2人と北京を訪れた女性1人で1人が極めて重症。 ・5人の感染者増が1/21に公表された。全員が武漢を出張、旅行等で訪問。 ・武漢を訪れた男性2人と武漢市在住の女性2人の感染が、1/22に公表された。 ・1/23に感染者が8人、1/24に4人増加した。
広東省	32人	<ul style="list-style-type: none"> ・年末に武漢を訪れた深圳在住の男性への感染が、1/20未明に公表された。 ・13人の感染者増が1/20夜に公表された。深圳8人、珠海3人、惠州1人、湛江1人。11人は武漢在住または旅行歴があり、2人は感染者と接触歴がある。極めて重症2人、重症4人。 ・3人の感染者増が1/21に公表された。深圳1人、珠海1人、湛江1人。 ・1/22に感染者が9人増加し累計26人になった。広州2人、深圳14人、珠海4人、佛山1人、韶関2人、惠州1人、湛江2人。 ・1/23に感染者が6人増加した。中山と肇慶でも新たに感染者が確認された。
上海市	16人	<ul style="list-style-type: none"> ・1/12に武漢から上海を訪れた女性の感染が、1/20に公表された。 ・年初に武漢を訪れた男性の感染が、1/21に公表された。また、同日、4人の感染を、1人は感染者との濃厚接触による感染であるとした。 ・武漢に旅行歴のある男性3人の感染が、1/22に公表された。 ・1/23に感染者が7人増加した。1人が危険な状態になっている。
浙江省	27人	<ul style="list-style-type: none"> ・1/3に温州を訪れた武漢市在住の男性の感染が、1/21に公表された。その後、同日で新たに4人の感染が確認された。杭州1人、温州1人、舟山1人、台州1人。 ・1/22に感染者が5人増加し累計10人になった。杭州1人、寧波3人、温州4人、舟山1人、台州1人。 ・1/23に感染者が17人増加し累計27人になった。杭州6人、寧波5人、温州6人、紹興1人、舟山1人、金華1人、衢州1人、台州6人。
天津市	4人	<ul style="list-style-type: none"> ・武漢に旅行歴のある女性と出張した男性の感染が1/21に公表された。 ・業務で武漢にいた2人の感染が1/22に公表された。
重慶市	9人	<ul style="list-style-type: none"> ・1/15に武漢から重慶に戻った女性の感染が、1/21に公表された。その後、4人の感染が新たに確認された。 ・1/22に感染者が1人増えたとの発表があった。 ・1/23に感染者が3人増えたとの発表があった。
遼寧省	3人	<ul style="list-style-type: none"> ・武漢と湖北省仙桃市で働いている男性2人の感染が、1/22に公表された。1人は重症。大連1人、瀋陽1人。 ・1/15に武漢から瀋陽に戻った女性の感染が、1/23に公表された。

江蘇省	5人	<ul style="list-style-type: none"> ・1/10に武漢から蘇州に戻った男性の感染が、1/23に公表された。 ・1/23に武漢を訪れた4人の感染が確認された。南京2人、雲港1人、揚州1人。
-----	----	---

(5) 中国政府の対応

中国政府は、新型コロナウイルス由来の肺炎を法定伝染病に指定した。また、事態を深刻に受け止め、国家主席の重要指示との位置づけで、武漢市から他地域への拡散防止措置、医療体制の強化、感染者の把握、感染源・感染経路の明確化と毒性や感染力の変異の観測、情報発信の強化、国際機関との協力等を強く指示し警戒を強めている。

2. 中国国外の状況

(1) 感染の状況

表3の通り、タイ、日本、韓国、米国、シンガポール、ベトナムで新型コロナウイルスの感染者が確認されている。

表3：中国国外における感染の状況（1月24日中国時間8時現在）

発生国	発症者数	状況
タイ	4人	1/8に武漢からタイに到着した中国人女性の感染が、1/13に公表された。
		1/13に武漢からタイに到着した中国人女性の感染が、1/17に公表された。
		1/19に武漢からタイを訪れた中国人男性と武漢に渡航歴のあるタイ人女性の感染が、1/22に公表された。
日本	2人	<ul style="list-style-type: none"> ・1/6に武漢から帰国した男性の感染が、1/15に確認された。海鮮市場には立ち寄っておらず、近親者からの濃厚接触で感染した可能性がある。 ・1/19に武漢から来日した旅行者の感染が1/24に確認された。
韓国	1人	1/19に武漢から到着した中国人女性の感染が、1/20に公表された。
米国	1人	武漢を訪れた男性の感染が、1/21に公表された、
シンガポール	1人	1/20に武漢から到着した旅行者の感染が、1/23に確認された。
ベトナム	2人	武漢から留学中の子供に会いに来た親とその子供の感染が、1/23に公表された。

(2) WHOの見解

世界保健機関（WHO）も、中国当局から提供されたウイルスの遺伝子情報を解析し、当初原因不明と言われた肺炎は新型コロナウイルスであると認定した。ウイルスの感染源や感染経路は調査中であるが、SARSやMERSのコロナウイルスと多くの共通点があり、ウイルスのヒト→ヒト感染について限定的であるが可能性は否定できないとしている。

1/22～1/23にかけて緊急委員会が開催されたが、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態の判断は保留された。また、1/23～1/24にかけて再度、緊急委員会が開催され、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態の宣言を行わない決定をした。現時点で、ヒトからヒトへの感染は認め

られるものの持続的な感染である可能性は低く、家族間や医療従事者への濃厚接触に限定される感染が大半として、世界的な脅威であるとの判断は行われなかった。

(3) 日本政府の対応

日本政府は、関係省庁連絡会議を開催し、厚生労働省を中心とした情報収集、検疫等の水際対策、感染者への検査体制等、対応に万全を期すことを確認している。

外務省は1/21に感染症危険情報をレベル1（十分注意）とした。さらに、1/23に湖北省武漢市を対象に危険度をレベル2（不要不急の渡航中止）に引上げ「不要不急の渡航を止めて下さい」と呼びかけている（武漢市以外はレベル1を継続）。また、海外安全ホームページにおいて、湖北省武漢市のスポット情報として、新型コロナウイルスに関する情報発信が継続的に行われている。

3. 今後、懸念されること

(1) 感染者数の急増

今年の中国の春節（旧正月）は1/24～1/30である。この大型連休の前後に延べ30億人が帰省や旅行で大移動することが慣例になっており、既に移動が始まっている。武漢市は中国有数の大都市である。高速鉄道網や航空路の要所となっており、国際空港の機能も整備されている。日本の成田、中部、関空との直行便も運航されている。今後、ウイルス保菌者が空港やターミナル駅での水際対策を潜り抜け、ウイルスが広い地域に拡散する事態が懸念されているが、武漢市の市外とつながる飛行場と駅は閉鎖される見込みであり、ウイルス拡散のリスク軽減が期待できる。

(2) ウイルスの変異

武漢市衛生健康委員会が公表した情報によると、新型コロナウイルスの毒性は、現時点では弱いものと考えられる。感染力についても、ヒト-ヒト感染の可能性は高いものの連続的な感染については明確になっていない（一部に推測的な報道はある）。今後注目すべきポイントは、現在のウイルスが何らかの原因により、重症急性呼吸器症候群（SARS）や中東呼吸器症候群（MERS）のように強い毒性と強い感染力を持つよう変異するか否かである。すなわち、感染者の致死率が著しく上昇すると共に、飛沫等を通じてヒトからヒトへ容易に感染する性質を有するようになるとパンデミック（世界的な大流行）に陥り、社会の混乱や経済活動の阻害に繋がる。

4. 企業における対応

(1) 社員への指示

春節の長期休暇中に社員が罹患しないよう、また、休暇明けに組織内で感染が広がらないよう、表4の感染予防策の観点で、注意事項を社員に周知しておくことが望ましい。

表4：社員に求める感染予防策

分類	感染予防策
基本行動	<input type="checkbox"/> 手洗い、うがい、咳エチケット（咳・くしゃみをする際に、マスクやティッシュ・ハンカチ、袖を使って、口や鼻をおさえる）を励行する。 <input type="checkbox"/> 人混みには、できるだけ近づかない。人混みではマスクを着用する。

感染地域	<input type="checkbox"/> 感染地域への不要不急の渡航を控える。 <input type="checkbox"/> 感染地域に渡航する場合、上司に事前報告する。上司は感染の有無を確認する。
感染の疑い	<input type="checkbox"/> 本人/家族で感染が疑われる場合は、速やかに上司に報告する。 <input type="checkbox"/> 速やかに医療機関を受診し、医師の診断・指示に基づき行動する。
感染した場合	<input type="checkbox"/> 感染予防の観点で、医師の許可があるまで出社しない。 <input type="checkbox"/> 医師の許可後の出社時には、マスクを着用し同僚との濃厚接触を避ける。

(2) 事業継続計画やマニュアルの確認

これまでの報道および当局発表から判断する限り、情報収集を継続すると共に、ウイルスが「強毒性かつ連続的なヒト-ヒト感染」の特性を有することが明らかになった場合に備え、既存の事業継続計画やマニュアルの実効性等を確認しておくことが望まれる。

一般的に感染症が蔓延した場合には、社員の感染予防策をとりながら必要な人員を確保する必要性に迫られる。さらに、限られた人員の中で優先度を考慮しながら業務継続を行う必要がある。業務継続のための事前対策例は表5の通りである。

表5：業務継続のための事前対策例

分類	事前対策例
対応組織の設置	<input type="checkbox"/> 緊急対策チームの統括責任者を任命し、協力部門を明確化する。 <input type="checkbox"/> 緊急対策チームのメンバーを任命し、役割・責任や緊急連絡方法などを明確にする。
継続すべき重要業務の明確化と対応策の検討・実施	<input type="checkbox"/> 自社の重要業務や、その業務を支えるメンバーを確認する。 <input type="checkbox"/> どの部門或いは、どの業務（生産工程等）が事業継続に欠かせないかを確認する。 <input type="checkbox"/> 「在宅勤務」の可否を検討する。 <input type="checkbox"/> 重要業務の継続を確保するため、各担当者間でお互いにトレーニングを実施する。 <input type="checkbox"/> コアメンバーが欠勤した際の業務分担を明確にする。また出社不可能な状況を想定し、代替メンバーへの教育・研修を事前に行う。
サプライヤー対策	<input type="checkbox"/> 重要な原材料を事前にストックしておく。 <input type="checkbox"/> サプライヤー、物流業者と非常時の原材料供給方法や運送手段を検討し、必要に応じて代替業者の確保も検討する。
感染情報や予防知識の周知	<input type="checkbox"/> 日常生活で注意すべき事項や、感染症予防の基礎知識などについて、社員向けに教育を行う。
情報の収集、感染者等の対策	<input type="checkbox"/> 医療機関のリストを作成する。 <input type="checkbox"/> 当局のホームページから最新情報をこまめに収集する。 <input type="checkbox"/> 感染症が流行している地域を行き来する社員のスケジュールを把握し、健康状態を確認する。

備蓄品の事前調達	<input type="checkbox"/> 体温計、マスク、薬用アルコール、ハンドソープ等を多めに準備しておく。
感染予防策の整備・確認	<input type="checkbox"/> 手洗い、うがい、検温等の基本行動を日常的に行うよう指示する。 <input type="checkbox"/> 会議の制限、来客対応の制限、出張の制限、時差出勤等の感染予防策を整備する。

以上

インターリスク上海 総経理 石川智則

参考資料：

1. 国家衛生健康委員会ホームページ
2. 国務院記者会見ホームページ
3. 各地域の衛生健康委員会ホームページ
4. 北京市大興区衛生健康委員会公表資料
5. 厚生労働省ホームページ
6. 外務省ホームページ

MS & ADインターリスク総研株式会社は、MS & ADインシュアランス グループのリスク関連サービス事業会社として、リスクマネジメントに関するコンサルティングおよび広範な分野での調査研究を行っています。
 中国進出企業さま向けのコンサルティング・セミナー等についてのお問い合わせ・お申込み等は、下記の弊社お問合せ先、またはあいおいニッセイ同和損保、三井住友海上の各社営業担当までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先 MS & ADインターリスク総研 総合企画部 国際業務グループ
 TEL:03-5296-8920 <https://www.irric.co.jp/>

インターリスク上海は、中国 上海に設立されたMS & ADインシュアランスグループに属するリスクマネジメント会社であり、お客様の工場・倉庫等へのリスク調査や、BCP策定等の各種リスクコンサルティングサービスをご提供しております。
 お問い合わせ・お申し込み等は、下記の弊社お問合せ先までお気軽にお寄せ下さい。

お問い合わせ先 瑛得管理諮詢（上海）有限公司（日本語表記：インターリスク上海）
 上海市浦東新区陸家嘴環路 1000 号 恒生銀行大廈 14 楼 23 室
 TEL:+86-(0)21-6841-0611（代表）

本誌は、マスコミ報道など公開されている情報に基づいて作成しております。
 また、本誌は、読者の方々に対して企業のRM活動等に役立てていただくことを目的としたものであり、事案そのものに対する批評その他を意図しているものではありません。

不許複製／Copyright MS & ADインターリスク総研 2020